

2025年 4 月 30 日

2024 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する () に ○を付ける	・共同研究 (○) ・個人研究 ()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	文芸学部・教授・堀新	
研究課題名	境界と境界認識の比較研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
上野慎也	文芸学部・教授	ヨーロッパにおける境界と境界認識の研究
研究期間	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	

研究実績の概要 (1)

研究代表者と研究分担者と話し合い、領土の境界争いに端を発した戦国合戦図屏風、戦国時代の日本・日本人の世界認識・世界観を示す「日本図・世界図屏風」を研究対象に定め、以下の史料所蔵機関において両名参加による史料調査を行った。

1) 柏原美術館 (山口県岩国市) 2024年8月8日

同所での撮影資料は以下の通りである。

- ①「川中島合戦図屏風」(六曲一双、伝安芸武田氏伝来、江戸時代初期の作品)
- ②「関ヶ原合戦図屏風」(二曲二双、伝紀州藩徳川家伝来、江戸時代後期の作品)

当初は①のみの予定であったが、調査の冒頭に同館館長との会話のなかで②の存在(それまで外部には未公表)を知り、急遽お願いして②を撮影した。そのため熟覧時間が制限されたが、高精細カメラによる撮影画像によってその不足を補った。

2) 海に見える杜美術館 (広島県廿日市市) 2024年8月9日

同所での撮影資料は以下の通りである。

- ①「宇治川・一の谷合戦図屏風」(六曲一双、伝来不明、江戸時代前期の作品)
- ②「二条城行幸図屏風」(八曲一双、伝来不明、江戸時代前期の作品)
- ③「大原御幸図屏風」(四曲一双、伝来不明、江戸時代前期の作品) ほか

研究実績の概要（２）

①③は平家物語および源平合戦に関する屏風であるが、戦国合戦図屏風と同時期の作品であるうえ、戦国合戦図屏風は源平合戦図屏風の図像を参照したものが多いため、戦国合戦図屏風の図像解釈の参考とするために撮影した。

3) 福井県立若狭歴史博物館（福井県小浜市） 2025年2月3日

同所での撮影資料は以下の通りである。

「世界及日本図」（八曲一双、小浜の豪商・河村家伝来、江戸時代初期の作品）

右隻に世界地図、左隻に日本地図が描かれた地図屏風であり、その最も古い形式と考えられている。天正20年（1592）の豊臣秀吉の「唐入り」（いわゆる文禄・慶長の役）に関する表記があり、地球全体の地理情報を飛躍的に獲得した時代の地理・境界認識や世界観を示す作品である。

4) 敦賀市立博物館（福井県敦賀市） 2025年2月4日

同所での撮影資料は以下の通りである。

①菊池容斎「関ヶ原合戦図屏風」（六曲一双、伝来不明、江戸時代後期の作品）

②今村公寵「武将図」（一幅、伝来不明、江戸時代後期の作品）ほか

②は戦国合戦図屏風に描かれる武将の図像の参考として撮影した。②は旧幕臣で故実家である菊池容斎（1788-1878）の作品であるので、制作年代を絞ることができるものとして貴重である。①は1) ②と同じく慶長5年（1600）の関ヶ原合戦の合戦図屏風であるが、両者は全く異なる図像である。1) ②は東西両軍の全体像を描くことに主眼を置いているのに対し、本作品は合戦の一部分を切り取ったような図像であり、そこに制作目的や境界・境界認識が示唆されていると考えられる。

上記とは別に、研究代表者1人による資料調査として、

5) 福岡県立図書館（福岡県福岡市） 2024年10月15日

同所での撮影資料は以下の通りである。

長野芳斎「福岡啓藩志」1～6

既に撮影済みの大阪城天守閣所蔵「大坂夏の陣図屏風」（六曲一双、福岡藩黒田家伝来、江戸時代前期の作品）に関する基本文献である中嶋利一郎（1884-1959）「黒田家什物 大坂陣屏風図考」に引用される長野芳斎（1808-1891）の関係資料を探索する一環で上記史料を閲覧・撮影した。残念ながら中嶋の引用する文献や、長野の大坂夏の陣に関する文献を発見することはできなかったが、長野の広汎な資料収集と分析など、その研究姿勢を窺い知ることができたのは収穫であった。なお前日の14日に長野が上記史料の執筆時に香椎宮（福岡市）の宮司であったので、香椎宮を訪問して関連資料を探索した。

以上の調査実績をふまえて、『総合文化研究所紀要』32号に論文を寄稿予定

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

堀新「日本史学の越境」(『文學藝術』46号、共立女子大学文芸学部、2025年1月)

以上